

浜松市営墓園・墓地のあり方を検討する有識者会議（第1回）サマリー

項目	内 容
日時	令和8年1月23日（金） 15:00 ～ 17:00
場所	浜松市役所本館8階 第5委員会室
出席者	委員（敬称略・50音順） 井上治代、中村公彦、西田かほる（座長）、村木則予、横田睦 オブザーバー（敬称略） 落合公信
事務局	水谷供子 市民部長、藤田裕 市民部次長兼市民生活課長、松本文哉 市民生活課課長補佐、中川政行 グループ長、青山将丈、松本夏音
委員発言 要旨	市営墓地の必要性 ・市民にとって市営墓地は必要である。 議論の前提として ・「合葬墓」「合祀墓」などの用語の定義づけして、共通理解をもって臨むべき。 需要数について ・需要数の算出の考え方は概ねよい。 墓の種類について ・一口に「樹木葬」といっても様々な種類がある。 ・後継ぎを必要としない墓に関する需要は強い。利用者が選択肢を持てることが大切。 整備について ・返還された区画の細分化も検討すべき。 ・三方原墓園は、日本庭園より噴水スペースが整備しやすい。そこには合葬墓整備が望ましい。 ・現納骨堂内の期限付き納骨スペースまで参拝者が入れるようになるとよい。 ・循環型墓地では合祀墓への改葬まで同一墓地内で完結することが望ましい。 制度について ・無縁墓の改葬をすすめ、再貸付を行うことで新規整備が抑えられる。 ・管理料は全利用者から徴収すべき、それが無縁墓対策にもつながる。 ・墓じまいは撤去費用が課題になる。 ・市営墓地についての情報提供が今のままでは不十分。
	【備考】